



あたらしい えほん

「あ！てんとうむし」
とうごうなりさ／さく
福音館書店
対象年齢：1才から
出版年：2024年3月



子どもがみつけたてんとうむしは、手の上をのぼっていきます。「あれあれ？てんとうむしどこいった？」いつの間にか子どもの手をおりて、今度は草をどんどのぼっていきます。もうすぐ草のてっぺんだけど、どこまでのぼっていくのかな？（Eト）

「たんぽぽのたね とんだ」
すずきゆりいか／文
ごんもりなつこ／絵
福音館書店
対象年齢：2才から
出版年：2024年2月



黄色いたんぽぽの花が、白いわたげになりました。わたげは風によって、たねを飛ばします。ちゅうりっぷの花畑を超え、花だんの石の上に降り、また高く昇ります。どこまで飛んでいくのかな？小さなたねの冒険に、命のふしぎが感じられる一冊です。（Eゴ）

「まっくらぼん」
ながしまひろみ／作・絵
岩崎書店
対象年齢：3才から
出版年：2023年11月



明るい時に気づかなかったことを「まっくらぼん」が教えてくれました。きらきら光るおほしさまにカレーや洗たく物のにおい、そして風で葉っぱがこすれる音。まっくらだけれど、なんだかにぎやか。そんな停電の夜にできた友だちとの不思議なお話。（Eナ）

「おねえちゃんて いいなあ。」
くすのきしげのり／作
岡田千晶／絵
佼成出版社
対象年齢：3才から
出版年：2024年1月



よそのおねえちゃんが、妹にお花を摘んであげたり絵本を読んであげたりする姿を見て、「いいなあ」という気持ちが募った女の子。お母さんに、おねえちゃんがほしいとお願いしますが…。女の子の成長とともに「いいなあ」は、別の意味に変わっていきます。（Eオ）



あたらしい えほん



「どーん、
じゃんけんぽん！」

ひがしちから／作

世界文化社

対象年齢：3才から

出版年：2024年3月



かんちゃんとゆいちゃんは、「どーん、じゃんけん」をして遊ぼうと公園にやってきました。それぞれ反対側から進んで、出会ったらじゃんけん。勝ったら進み、負けたら道をゆずります。ところが、かんちゃんが進んでいくと、向こうからやってきたのはゆいちゃんではなくて…。(E七)

「ねこのずかん

家ねこと野生ねこ」

おちょぴ／絵

今泉忠明／監修 Gakken

対象年齢：4才から

出版年：2024年2月



猫の模様でいちばん多いのは何かな？機嫌がいい時と悪い時、しっぽの動きや体の様子はどうなってる？など、家ねこと野生ねこの種類、しぐさや気持ちが可愛いイラストで紹介されています。読むとねこがもっと好きになるかもしれません。(Eオ)

「てきぱきはたらくちのひみつ

(からだはすごいよ!)」

木村倫子／絵 弓倉整／監修

少年写真新聞社

対象年齢：5才から

出版年：2023年11月



けがをして血が出ても、時間がたつと止まるのはなぜ？どうして血は赤いの？赤血球、白血球、血小板の親しみやすいキャラクターたちが、からだにとって重要な役割を果たす血液のすごいパワーを紹介します。血がしっかり元気に働くための方法ものっています。(Eキ)

「なすこちゃんとねずみくん」

堀米薫／文

こがしわかおり／絵

新日本出版社

対象年齢：5才から

出版年：2023年12月



ひとりぼっちのねずみくん。ある夜、おなかがすいて畑へ行くと、何やら陽気な歌声が聞こえてきます。声の主は小さな苗のなすこちゃん。驚いて逃げだしたねずみくんですが、うしろから聞こえてくるへんてこな歌に思わず笑ってしまいます。次の日もなすこちゃんの歌が気になって…。(Eコ)



読みつがれている えほん



「おでかけのまえに」

筒井頼子／作

林明子／絵

福音館書店

対象年齢：2才から

出版年：1981年10月



日曜日の朝、目が覚めるととってもいい天気。今日はピクニックに行く日です。お母さんもお父さんも準備で大忙し。あやちゃんは、何かお手伝いしようと考えますが、どれもこれもうまくいきません。お母さんにお気に入りの服を着せてもらい、鏡の前で静かに待っていたあやちゃんですが…。(Eハ)

「スーホの白い馬」

大塚勇三／再話

赤羽末吉／画

福音館書店

対象年齢：4才から

出版年：1967年10月



モンゴルの草原に住む少年スーホは、大切に育てていた白馬と一緒にけいばの大会に出場することになりました。一位になればどのさまの娘と結婚できると聞き、苦勞の末スーホは優勝しますが…。モンゴルの楽器、馬頭琴が生まれるまでを描いた、馬と少年の友情の物語。(Eア)